



この一般質問の映像はこちらから

ふるさと納税について



高橋 輝

質問

ふるさと納税の増額は

町 魅力的な特設サイトを開設した

業務に当たっている人員数は。

2名が担当しているが、他の業務と掛け持ちである。

ふるさと納税を増やす方策は。

魅力的な特設サイトを開設した。返礼品も継続的に追加していく。

返礼品の開発に役場の若手職員で構成される「新鮮組」を活用する考えは。

今は行っていないが、今後検討する。

寄付のリピーターを増やすために、ソーシャルメディアやダイレクトメールを利用する考えは。

現状は人道的に厳しいが研究していく。

納税額を増やすには、人員が少ないのではないか。

現在、増員は考えていない。

クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した町の件数は。

1件のみ。

※1 クラウドファンディングインターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思われる人から資金を募るしくみ。



ふるさと納税のポータルサイト

動物愛護について

質問

殺処分の現状はどうなっているか

町 年々減少傾向にある

殺処分ゼロを目指す方策は。

県の動物愛護指導センターのもと、犬猫の譲渡会等を行っている。町としてはセンターの活動に協力していく。

殺処分ゼロを目的としたガバメントクラウドファンディングを行う考えは。

取り入れる考えはない。

犬猫の去勢、避妊手術の助成を増額する考えは。

県内で最も高い助成額なので、現在は考えていない。

動物愛護に関する教育をどのように行っているか。

小中学校では、道徳の時間に動物愛護の学習を実施し、保育園でも動物とのふれあいを通じた活動を実施している。また、町では2月の第3週を「いのちの週間」として、この期間ほどの学校でも命の大切さについて学んでいる。

※2 ガバメントクラウドファンディング自治体などが事前に事業資金の用途を限定し、賛同者から寄付金を募集する仕組み。税金の控除が受けられるふるさと納税制度とクラウドファンディングを組み合わせたもの。

ペットにも幸せになる権利はあります
(栃木県動物愛護指導センターのホームページより)



※ほかに「選挙費用について」の質問をしています。